

大腸内視鏡編

いわゆる大腸ファイバーです。器械そのものの基本的な構造は胃カメラと同じですが、大腸内視鏡の挿入法には施設や医師によって色々な流派のバリエーションがあります。胃カメラは、極論すれば「出し入れだけなら、一ヶ月で習得」できます。しかし大腸内視鏡は、胃カメラを最低500例程度施行し、その後師匠のダメ出しを喰らいながら半年から一年かけて漸く半人前の扱ひを受ける、内科に残る数少ない徒弟制度の色濃い分野です。更に濃厚な胆膵内視鏡の分野もあるのですが、あまりにも濃いので割愛します。



さて、大腸は枝分かれがあるわけではないので、勿論、力任せにやれば入ることは入るのですが、腹痛を伴ったり、穿孔や出血などの偶発症のリスクが非常に高くなります。そして何よりも、「こんな苦しい検査は二度と御免だ」と思われると、その人は血便が出るまで大腸内視鏡を受けることはないでしょう。即ち、定期的に検査を受けていれば発見できていたかもしれない大腸癌の早期発見の機会をなくしてしまうことに他なりません。これは罪です。

私の目指す内視鏡は、「上品な内視鏡」。ぎゅうぎゅう押ししたり、「いてててて〜！と」絶叫・悶絶したりしながら入れる内視鏡はするほうもされるほうも脂汗ものです。頭の中で大腸の立体をイメージしながら内視鏡を進めてゆきます。皆さんからは、「まあ、下剤は辛いけど、一年一回受けていれば安心だし、テレビの大腸癌特集も余裕で見られるし。」という評価を受けております。

私が以前勤務していた神戸百年記念病院（旧 鐘紡記念病院）では、「胃腸は語る」や最近では「病気になるない生き方」でお馴染みの新谷弘美先生を以前消化器センター顧問に迎えていたこともあり、早くから shinya method を取り入れておりました。実際には、内視鏡検査の際に少量の安定剤を使用し（意識下鎮静法；conscious sedation）、挿入は腹部の用手圧迫を使用して大腸の短縮を行い、検査の苦痛を最小限度に抑えております。

唯一の注意点は、少量とはいえ安定剤を使用しておりますので、検査当日は自動車の運転等は控えて下さい。

大腸内視鏡検査の手順ですが、胃カメラと同様、抗凝固剤を内服中の人は指示に従って休薬してもらいます。胃カメラと大きく違う点は下剤を内服してもらう必要があると言う所です。

内視鏡検査では残便が一番の大敵ですので、便に残りにくい食事を前日より摂ってもらう必要があります。具体的には、コロミルというレトルト食品を食事代わりに摂ってもらういます。



[検査食]

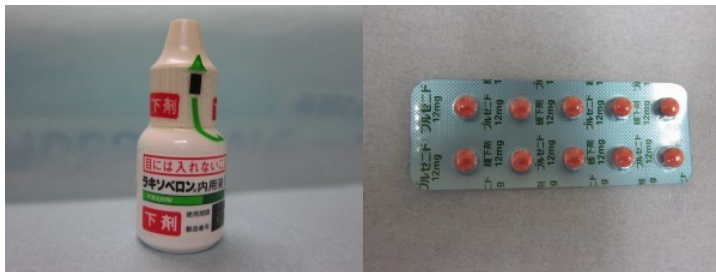
一日中粥で凌いでもらっても良いのですが、ふりかけにゴマが入っていたり、繊維質が多かったりで、結構内視鏡に支障が出るので、できればコロミルが好ましいです。

内視鏡で、ゴマを見ると意外に大きくパチンコ玉位の大きさに見えます。味噌汁やスープなどの汁物は大丈夫と思うのでしょうか、つい飲んでしまうのでしょうか。もやしや椎茸も良く残っています。

スイカの種は夏の定番で、大腸にごろごろ残っていることもあります。「昨日、スイカ食べたでしょう」と訊くと、「なんで知ってるんですか!？」と驚かれます。

まるで、よく当たる占い師のようです。

検査の前日は、検査食（コロミル）を食べたあとにもう一仕事。寝る前に下剤を飲んでもらいます。しかも結構な分量を。錠剤を2錠と液体の下剤を一本！



[検査前日用の下剤]

液体の下剤は、普段は「一回20滴」なのですが、便をひねり出さないことには検査にならないので丸々一本の内服です。翌日には便意を催して、硬い便は排泄完了。検査当日の仕上げに臨みます。

さて、いよいよ検査当日。固形便は昨夜の下剤ですっかり出ているはずですが。

しかしそのまま検査に臨むと、大腸内の泥状の便が内視鏡のレンズにこびり付いて検査になりません。そこで、最後の仕上げ。マグコロールPという下剤で大腸を洗浄します。写真の粉薬のパックに冷やした水を1800ml注いでもらって、1-2時間かけて飲んでもらいます。こんなもんできれいになるのかなと思っていたら、1時間位したところで便意を催してきます。トイレに行くと見事な水様便が出るわ出るわ。しかし不思議とおなかには痛くはなりません。その水様便も1-2時間で終了します。そのあとクリニックに出かけて検査に臨みます。



[大腸洗浄剤]

さて、いよいよ検査です。大腸の検査は便汁で下着が汚れるので、紙製の使い捨てのパンツとシャツに着替えてもらいます。

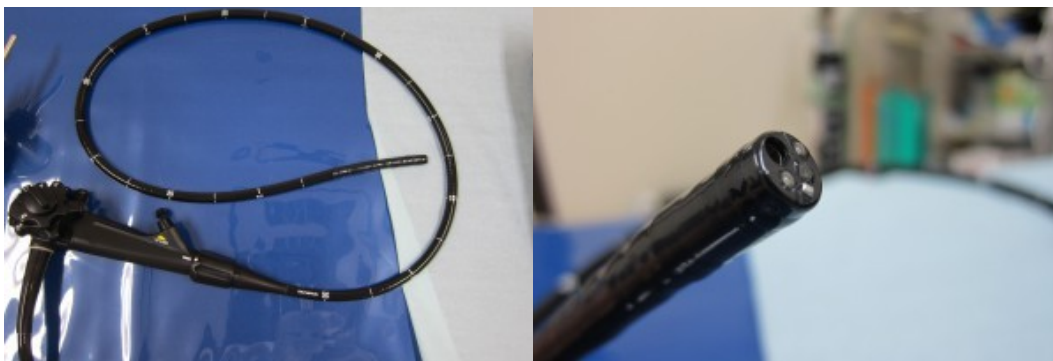


[使い捨ての紙パンツとシャツ]

そして検査台へ。65歳以上の方は、下剤で脱水気味になっていることがあるので点滴をしながらの検査になります。

緊張のあまり、おなかに力が入っては内視鏡が進みにくく、また大腸の曲がり角で腸が張って痛みが生じることがありますので、鎮痛剤と安定剤の注射をします。大抵の人は注射をしているうちに眠たくなって寝てしまいます。

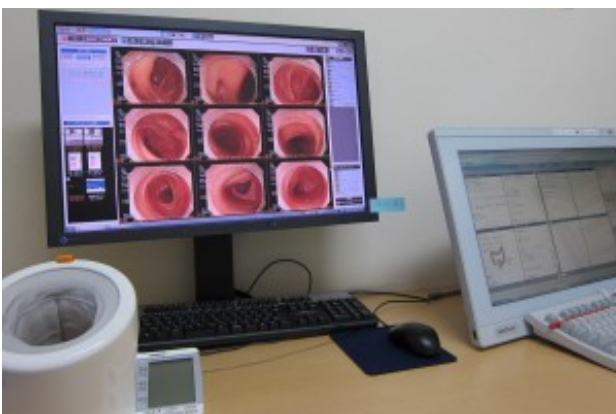
気になる内視鏡本体ですが、当院ではかなり柔らかい内視鏡を導入しております。先端は、ライトとレンズとそして細胞を取る道具を出す穴が開いています。ポリープや潰瘍などがあれば、その場で細胞を採取して検査に出します。



細胞を採取する道具です。3-4mm程度の組織が採れます。腸管粘膜には痛みの神経がないので、細胞を採っても痛くはありません。



検査の後は、安定剤のために眠気が残っているのでリカバリー室で一休みして貰います。



一休みしたところで、写真を見ながら結果説明です。細胞の検査をした場合は、結果が出るまでに一週間程度かかります。お疲れ様でした。